

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会 174号



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認
毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行

もくじ
目次

とうじしゃぬ せいど え かもち 当事者抜きの制度は絵に描いた餅	2
とうじしゃ いけん き 当事者の意見を聞いて!	4
はっしん ひと こうりゆうかい つながり発信する人たちとの交流会	6
だい かい いっしょよ しんぶん 第12回 いっしょに読もう! 新聞コンクールより	8
ちいき く わたしたちは地域で暮らしているんだ	9
いくのく いっせい さんか 生野区一斉パトロールに参加して	10
こそだ にっき スタッフ子育て日記	11
かつどう 活動のあと	12

当事者抜きの制度は絵に描いた餅

久しぶりに大阪市立美術館に行こうと考えていたら、「予約はしましたか？」と言われました。密を避けるために予約制になっているとのことでした。ふらりと立ち寄ろうと思っていたので、もちろん予約はしていませんでした。改めて仕切り直して友人を誘って出かけました。

コロナの第5波が落ち着いた束の間、失われたものを取り戻すかのように、出かけたり、人と会って話をしたりする時間が増えました。オンラインで人を分散させて実施してきた職員研修も、一年半ぶりに全員集まって対面でおこなうことにしました。そこで、グループホーム制度の歴史について触れ、改めてグループホームの在り方について話し合いました。軽度の障害者が4人から5人くらいで共同生活をするということを想定して作られた障害者のグループホームは、制度ができて間もなく重度の人たちもこれを利用し始めました。現在、区分に関係なく利用できるグループホームの利用者数は右肩上がり伸び、令和3年には14万人を突破し、入所施設で暮らす人の数を上回りました。近年は営利企業の参入も多く、10名という指定基準上限の入居定員で新規開設されるグループホームが増えています。当会のグループホームは、4人から5人の暮らしを基本にしてきました。なぜかという生活場面に複数の支援者が入って一緒に過ごすので、入居人数が増えすぎると雑然として落ち着かないからです。それに、あたりまえの暮らしを実現するという大前提があります。現代の日本で10人の共同生活を送っておられる方はあまりいないと思います。入居者が多いほど支援は効率を凶られるようになり、個別の希望を尊重するというあたりまえのことができなくなっていきます。普通の暮らしをするために始まったグループホームですが、建物自体が建築基準法や消防法の改正を経ていわゆる一般住宅とは異なるものになっていきました。10人が一緒に暮らせる建物は一見すると集合住宅のような外見でそれはもう「ミニ施設」です。

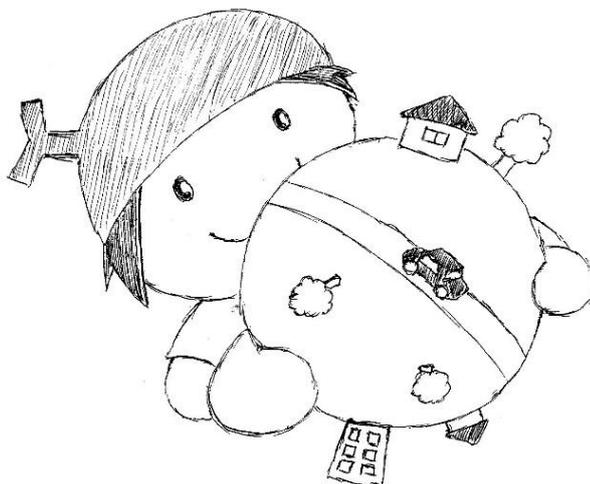
厚生労働省が昨年6月に「通過型」グループホームの新設をのぼり旗にしたグループホーム再編を考えていることが分ると、障害者を支援する団体が集い、グループホーム再編に反対する緊急行動ネットワークが立ち上がり、署名活動を開始しました。ネットワーク事務局のFAXは鳴り止まず、郵便で次々と署名が集まってきました。とりわけ電子署名の拡散の速さは驚くべきものでした。1か月間でおおよそ3万7千もの賛同を得ることができました。11月末に厚生労働省に署名を提出したあともまだまだ全国から署名が届いています。

障害者が地域で暮らしていくための制度やサービスはこれまでにいくつも作られてきました。どこで住みたいか、だれと住みたいかはすべての人が等しくもつ権利です。福祉サービスを使いながら暮らそうと考 えている障害者の相談支援に始まり、グループホームには体験入居の制度もあります。入所施設を出て暮らす人の応援をする地域移行の仕組みもあります。ひとり暮らしを支える居宅介護や重度訪問介護、自立生活援助という新しいサービスもできました。国は、これらの支援の仕組みがなぜ十分に機能していないのかを検証することなく、グループホームで暮らす人たちのなかにひとり暮らしの希望者がいるにもかかわらず、そこを支援できていないから通過型を作ると言っています。しかし、ひとり暮らしがしたい人がなぜ共同生活の場で「訓練」する必要があるのでしょうか？初めからひとりで暮らせるように支援したらよいと思います。実家または入所施設、入院病棟等から通過型グループホームに移って、訓練がおわったらまた引っ越しをすることになります。3年間で2回も引っ越しすることになります。どうしてこんな大変なことを障害者に強いるのか理解に苦しみます。初めから十分な支給量を個別に出せばよいのです。

そして何より大切なことは当事者の意見を聞くことです。“Nothing About Us Without Us” これはピープルファースト運動の重要な理念です。グループホームで暮らす障害者の多くは知的障害者です。当事者抜きに決めた制度は絵に描いた餅に終わります。ひとりで暮らしたいという希望もだれかと一緒に暮らしたいという希望もどちらも選べること、当事者が希望する暮らしを支えられる仕組みをつくるために私たちは障害当事者と共に声を上げ続けたいと思います。

オンライン会議にもすっかり慣れて、直接会うことができる機会は特別な時間になりましたが、さまざまなかたちでつながっていきたいと思います。みんなで力を合わせて今年もなんとかやっけていこう！

(カオリ・I)



当事者の意見を聞いて！

わたし いま
私は今、ひとり暮らしをしています。

ねんかん
6年間グループホームで生活している間、グループホームのスタッフに準備を手伝ってもらいました。ひとり暮らしを始めてすぐに寂しくなって、グループホームに戻りました。今度は8年間準備をして、2回目のひとり暮らしを始めて、5年になります。

いま たの
今は、楽しいです。ずっとひとり暮らしをしたかったけど、年数が決められると、すごくあせるのでイヤです。私のペースで支援してほしいです。

(サヨコ・H)

わたし こべつ
私は個別ヘルパーを利用しながらグループホームで生活しています。ヘルパーさんには一緒にそうじをしてもらったり、おふろの介助をしてもらっています。料理やおかしづくりも一緒にしています。ヘルパーさんが使えなくなったら、スタッフは私より介助のたくさんいる人のことで忙しくなると思います。ヘルパーさんが来なくなったら、ひとりで何もできないのがイヤです。

せいど か
制度を変えるときは、私たち障害当事者抜きに勝手に決めないでください。

(リズム・T)

がつ か ひがえ
11月24日、日帰りで東京まで署名提出に行きました。前週金曜日に日程が確定したにもかかわらず、当会からもメンバー2名が立候補してくれました。当初は署名提出と厚生労働省との意見交換だけの予定でしたが、オンライン署名のchange.orgさんよりアドバイスをいただき、記者会見もおこなうことになりました。

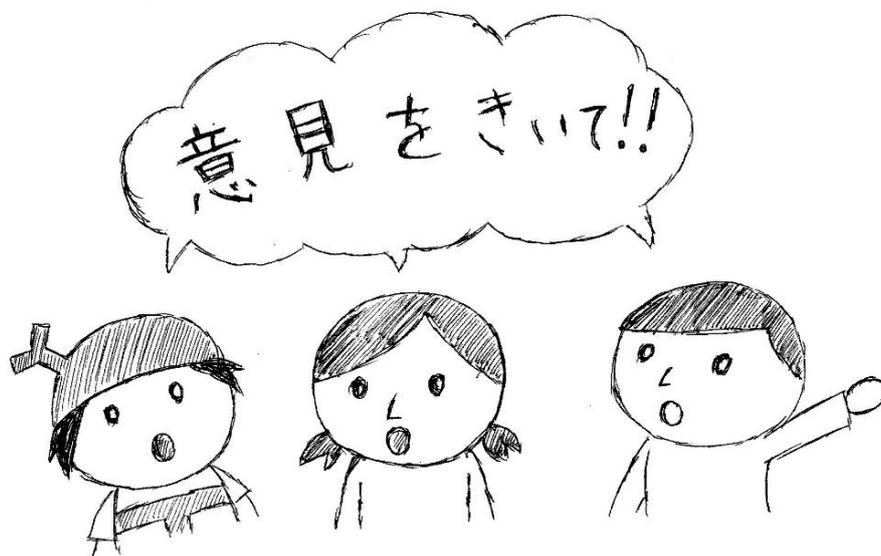
メンバーのHさん、Tさんには事前に十分な情報提供ができていなかったため新幹線車内で説明をし、記者会見用の意見文を書いてもらいました。記者会見には新聞社やテレビ局など6社が来られ、知的障害当事者8名がマイクを回して意見を表明しました。グループホームは大切な暮らしの場であること、自分たちの暮らしを国が勝手に変える権利はないこと、当事者抜きで勝手に話を進めないでほしい、それが世界の常識だということなど、そ

れぞれに思いのこもった発言でした。会見後、Hさんは兵庫から来たSさんに「とても思いが伝わった。涙が出そうになった。」と声をかけられていました。

その後の意見交換会は、厚生労働省職員よりグループホーム再編案の説明を聞いた後、当事者に思いを伝えてもらいました。入所施設や大規模なグループホーム、年限付きの通過型グループホームについて厚生労働省側から「いろいろな団体から要望も出ていて・・・」と発言がありましたが、社会保障審議会障害者部会に知的障害当事者が入っていないこと、要望団体は支援者や当事者の家族が多いことが話題にあがると、当事者から「支援者や親じゃなく、自分たちの意見を聞いてほしい」「入所施設で暮らして辛い思いをしてきた」「大規模グループホームの見学に行ったが、食事は1週間単位で配送される決まったものを温めるだけ、お風呂の回数やスケジュールも決まっていて、制限されている。自分はそんなところに住みたくない。仲間もそんなところに入ってほしくない!」「グループホームで暮らしているのは多くが知的障害者だ!いつも知的障害当事者が抜け落ちるんだ!」など、切実な思いが次々と出てきました。そこで時間切れとなり、これからも当事者との意見交換を続けてほしいと要望し、終了しました。

Hさん、Tさんもとても緊張しながら自分の意見を発表してくれました。すぐに東京駅に直行、夕食を食べて、各々が大阪の家にとどり着いたときは23時を回っていました。「疲れた～。観光にも行きたかった～」と言いながらも、充実した表情の二人でした。今回は制度設計上の具体的な“成果”はほとんどありませんでしたが、当事者が前面に立つて思いを伝える活動を続けたい、と改めて感じました。

(ミサオ・K)



つながり発信する人たちとの交流会

「大阪市市民活動ソコチカラプロジェクト」は、各地の特色のある市民活動の「チカラ」をつなぎ、活動課題改善や、相乗効果で新たな価値観を生み出すことをねらいとしたプロジェクト。その内の、「素敵なゲストとつながる・学ぶ！ステップアップ交流会（活動課題を持つ団体の参加者が、素敵なゲストや他団体参加者とつながり・学び、もやもや解消をサポートしてくれる）」が10月19日に開催され、参加してきました。

交流会のテーマは「人権・多文化共生」。様々な違いを尊重しながら人と人が繋がることを大切にしている各団体の方々が参加されていました。子どもの居場所・多様な課題に取り組まれている方、色覚を通して多様性を大切にする取り組みをされている方と共に当団体の吉岡さんも「素敵なゲスト」として交流会に招かれ、松野農園での取り組みを中心に多様性を尊重しながら色々な方々と繋がる活動を報告されていました。

ゲストの方々が共通して重要視している価値観は「違い」を認め合うこと、尊重すること。言葉としては当たり前のように知っているけれども、違いを認め合うこと、尊重することは、実に難しい。「違い」が対立や争いを容易に生み出すことを経験してきているし、自身が生み出したことがあることも知っている。一方で「違い」が興味深く、面白く感じられることがある。自身の知らない新しい世界が開かれる感じ。「違う」と感じた事が新たな視点を通してみることでそれとは「違う」何かを感じられた時の面白さ。知ることの面白さ。ゲストの方々もおそらくはそんな難しさ、面白さを知っているからこそ取り組みを実践し続け、発信し続けているのかな、などと思いながらお話を聞かせていただきました。

興味深いお話の後は、グループに分かれてのワーク。参加者が所属する団体の課題や問題意識をそれぞれ開示し、それについて他の参加者が感じた事を提示し、それを踏まえ新たに感じられたこと、改善出来る可能性、新たな問題意識などを整理してみよう、といったものでした。

私が参加したグループ（3人ですが…）、元気でとても積極的。やりとりが盛り上がり、それだけでも楽しい時間でした。私が開示した課題・問題意識は「当団体には当事者主体を重要視した取り組みを積み重ね、それを形にし、言語化し、共有可能にしたしっかりとしたコンテンツがある。一方で外部への発信が弱いように感じる。もっと知ってもらって、多



くの関係者の方々（他団体やボランティアや地域の方やどんな方々でも）と一緒に取り組んだり悩んだり喜んだり出来ても良いのではないかと感じる。」といったもの。

それについて他の参加者からは「発信の方法を考える必要がある」「時代の流れを知る必要がある」「繋がれる機会を可能な限り増やすことが重要」「より多くの方々と繋がるにはSNS活用が必須」「SNS運用にはコツがあり、日々勉強」「SNS、自分が苦手でも関係者がたくさんいれば誰か得意な人がいるはず」など、次々にご指摘をいただきました。

同時に新しいコミュニケーションツールを活用するにあたって様々な準備・対策が必要なこと、特にSNSは不特定多数の方と繋がることが出来ると同時に多くのネガティブな反応や誹謗中傷などに直面する可能性が高まり、それらには丁寧なケア（外部にも内部にも）が必要であること等も経験も踏まえ丁寧に教えていただきました。自分はこんな問題意識を開示したくせに「繋がるの苦手だな」「SNSしたくないな」と思っているのに「誰か得意な人がいるはず」という指摘はちょっと気が楽になりました。時代の流れに乗れる気が全くしないけど、発信に繋がるような、何か自分が出来ることを出来るの良いのかな、などともう一つポジティブになり切れない感想を持ちつつありがたくご指摘を伺っていました。



ワークの最後に今感じていることを問われ、「SNSみんなで頑張りたいです」と自分の役割を濁して回答した後、「繋がることが出来たとして、その後はコンテンツが問われることになると思うので、改めてそれを磨くことが出来たら良いな、と思います。みんなで考えていけたらと思います」と回答しました。自分が出来ることは何か、まだ見えていないですが、当事者の方が生き生きとしていて楽しそうで、周囲もそれを楽しめている、そんなことに貢献出来たらな、と思いました。身近な繋がりにも様々な「違い」が意識され、時にそれが難しい状況を生じさせると思うのですが、お互いを知ることによって乗り越えていけたらな、と思いました。外部の多くの方々と繋がると、もっと多くの「違い」に向き合うことになるのだらうと思います。頑張れるかな？でも粘り強く実践を続け、発信を続け、お互いを知ることによって何かが見えてくるのではないかと、違いを認め、尊重し合えるのではないかと。そんな風に思わせてもらえる素敵なゲストの方々のお話であり、他団体の方々とやりとりでした。とても価値のある交流会だったな、と感じました。

(カツヤ・K)

第12回 いっしょに読もう！新聞コンクールより



みらくる ゆーすとに通う中学3年生・Yさんが「第12回いっしょに読もう！新聞コンクール」において奨励賞を受賞されました。このコンクールは①主体的（記事の感想・意見）、②対話的で（他人が読んだ意見をまとめる）、③深い学び（話し合った後の意見・提言）の3ステップでそれぞれにまとめたものを書く形式になっています。Yさんは読売中高生新聞の発達障害の特集を読んで「発達障害の自分の困り感を伝えたい！」と読んで応募に至ったそうです。

受賞作品（ルビは編集によるものです）

①この記事を選んだ理由と、記事を読んで思ったこと、考えたことを書いてください

私がこの記事を選んだ理由は、私が発達障害で周囲の人も私も困っているからです。なぜなら、特性について私が上手に伝えられないので、周囲の人の中でも特に同年代に伝わらないからです。記事を読んで思った事、考えた事は、支援方法や発達障害についてどんな人にも分かりやすく、発達障害と診断されたけれど支援方法で困っている人が、どういう支援があるのかが分かりやすく、困っている人の助けになるのではないかと思います。

②家族や友だちなどにも記事を読んでもらい、その人の意見を聞き取って書いてください

先生は、「発達障害の人と周囲の人が個性を認め合う事が大切だ。」とおっしゃっていました。なぜなら、1人1人の得意と苦手が違って各々にフォローが必要だという事を再確認したからだそうです。なので、「本人の努力を求めるのではなく、少しの想像力と適切な知識を持つ事があたりまえになればいいな。」とおっしゃっていました。

③話し合った後のあなたの意見や提案・提言を書いてください

私の話し合う前の意見は、発達障害者の側の意見で自分が困っている部分のみを書いていました。ですが先生方から周囲の人側の意見を聞き、私の思いは、周囲の人やその発達障害の人にも理解がないとやっていけない、そして「少しの想像力と適切な知識を持つ事があたりまえになればいいな。」とおっしゃっていた先生の考え方があたりまえになればいいなと思いました。それから私は今は難しくても発達障害を持っている人でも受け入れられやすい社会にして行く為に例えば、普通学級の人達や関係がないと思っている人にこそ発達障害の多様さを

知^しってもらいた^たいです。例^{たと}えとして教科書^{きょうかしょ}ならば重^{じゅうど}度の発^は達^{たつ}障^{しょう}害^{がい}の話^{はなし}が出版^{しゅっぱん}社^{しゃ}によ^よって^ては記載^{きざい}されて^いるの^のです^すが、学^が力^{りょく}に問^{もん}題^{だい}の^ない人^{ひと}や対^{たい}人^{じん}関^{かん}係^{けい}が苦^に手^がな人^{ひと}の話^{はなし}が私^{わたし}の知^しって^いい^る範^{はん}圍^いでは記載^{きざい}が無^ない^ので、普^ふ通^{つう}学^{がく}級^{きゅう}の人^{ひと}で知^しって^いる人^{ひと}が少^{すく}ない^のです。な^ので私^{わたし}は、多^{おほ}く^くの^の人^{ひと}の目^めに触^ふれる物^{もの}に発^は達^{たつ}障^{しょう}害^{がい}の多^た様^{よう}性^{せい}につ^ついて書^かいて欲^ほしい^のです。

わたしたちは地域^{ちいき}で暮^{くら}らしているんだ

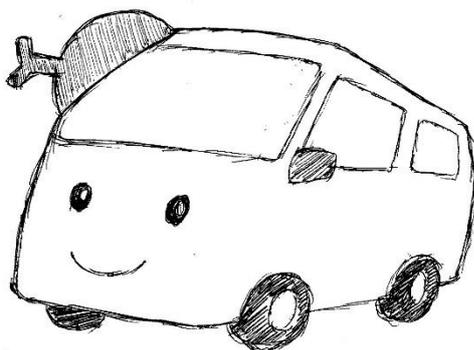
グ^もル^ちー^りプ^かン^ん桃^も栗^ち館^{かん}の^いみ^んな^でド^らイ^ブに^いっ^きで^きま^した[！]！目^も的^{てき}地^ちは滋^し賀^が県^{けん}の“琵琶^{びわこ}湖^こバ^レイ”^です。今^{こん}回^{かい}のド^らイ^ブ旅^{たび}はハ^ブニ^ング^がい^っぱ^いい^でし^た。

車^{しゃ}内^{ない}ではM^もさん^が持^もっ^てき^てく^れた^懐メ^ろ夏^{なつ}ソ^ング^のCD^を聴^きな^がらド^らイ^ブを^{たの}しみ^まし^た！高^{こう}速^{そく}道^{どう}路^ろの料^{りょう}金^{きん}所^{じょ}でE^とT^とC^とレ^んを^あと^ろう^すると…バ^あー^が上^あが^らな^い！？機^き械^{かい}のト^らブ^ルでE^とT^とC^との電^{でん}源^{げん}が^{はい}入^いっ^てな^かっ^たよ^うで^す。し^ばら^くす^とと^とCD^も止^とま^って^しま^いま^した。滋^し賀^が県^{けん}に^{はい}入^いると琵琶^{びわこ}湖^こバ^レイ^の近^{ちか}く^の降^おり^{ぐち}口^まで渋^{じゅう}滞^{たい}で^した！よ^うや^く琵琶^{びわこ}湖^こバ^レイ^に着^つい^{たら}も^う14^じ時^{くら}い^でし^た。

ト^いレ^{きゅう}休^{けい}憩^いして、い^ざ、ロ^ろー^{じょう}プ^{しゃ}ウ^おェ^ちイ^おに乗^の車^ち！と^おも^った^らM^もさん^がい^ない[！]！？一^{ひとり}人^{さき}で^先にお^み土^{みやげ}産^{てん}店^みを^みて^いま^した。気^きを^と取^とり^なお^して^皆で^のロ^ろー^のプ^のウ^のェ^のイ^のに^の乗^のっ^てい^ざ山^{さん}頂^{ちよう}へ[！]！み^んな^で美^あい^{しい}ハ^たン^{たん}バ^{じょう}ー^びガ^{いわ}ー^を食^はべ^て、K^のさん^の誕^{たん}生^{じょう}日^びの^お祝^{いわ}い^を琵琶^{びわこ}湖^こバ^レイ^です^るた^めに^持っ^てき^たケ^あー^キを^あい^{しく}い^ただ^きま^した。

帰^{かえ}り^のロ^ろー^のプ^のウ^のェ^のイ^のを^お降^なり^てし^ばら^くす^とと^と涙^{なみだ}する^{メン}バ^ーさん^が！ど^うし^たの^か聞^きい^てみ^{ると}「怖^{こわ}か^った[」]と^のこ^と。実^{じつ}は^ロー^のプ^のウ^のェ^のイ^のが^{こわ}か^った^みた^いです。帰^{かえ}り^も渋^{じゅう}滞^{たい}して^予定^{てい}の^じか^んは^おー^ばー^して^しま^いま^した^が、車^{しゃ}内^{ない}は^{ワイ}ワイ^しな^がら^楽しく^帰り^まし^た。1^に日^{いち}色^{いろ}んな^{わら}笑^{わら}い^がい^っぱ^い。そ^んな^ドラ^いブ^たび^旅で^した。

(タイチ・N)



生野区一斉パトロールに参加して



「今年は一斉パトロール、あるんや」と回覧板の案内を見ていたら、「どれどれ？」とTさんが覗き込んできました。「行く？」という私の問いに、笑顔で「うん！」の一言でグループホーム代表として参加決定！Tさんは、恥ずかしがり屋さんではありますが、人とつながる力を持っている方で、地域のイベントに積極的に参加し、お知り合いをどんどん増やしておられます。

昨年（令和2年度）は、コロナウィルス感染予防のため中止に。「前も行ったな」「〇〇さんに会ったで」など、2年前の記憶をたどり「懐中電灯は？」「反射するリストバンドは？」とパトロールで使用する備品を準備しました。パトロール開始は20時から、反射板や懐中電灯を灯しなら夜の町内を歩きます。生野区一斉パトロールは、生野区内の犯罪抑止および地域住民の自主防犯意識を高めることをめざし、区内全ての町内会が各地域で一斉におこなうパトロールのことで、令和3年度で8回目の実施になるそうです。

集合時間の15分前に、町内の災害時一時集合場所に到着。「地震や火事で困ったとき、ここに来たら近所の人に会えるよ」など、Tさんと確認しながら待っていると、ご近所の方がパラパラと集まってこられました。Tさんが参加者名簿を記入していると「なんて読むの？」「素敵な名前やね」など、話しかけてくださりTさんもハニカミながら、返答されていました。その光景が立ち話に見えた私は「よし！顔見知りの人できた！」と、心の中でつぶやいていました。

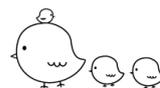
20時、さあ出発！と約20名の参加者が歩き出すと、雨が降ってきました。傘をさして歩いたのですが、雨は激しく降り始め、残念ながらパトロールは開始早々中止に。帰宅してTさんと振り返りをすると、「楽しかった」「〇〇さんおった」「また行きたい」と、話してくれました。

グループホームらしいが現在の場所に引っ越してきて10年ちょっと。同じ通りの方々とは、お会いするとご挨拶できますが、通りが違うご近所さんにお会いする機会は、ほぼありません。コロナ禍ではありますが、町内、地域の取り組みに参加し、お互い顔見知りになることの重要性を、再確認したイベントでした。

(アツコ・S)



スタッフ子育て日記



私事になりますが、8月に新型コロナに感染するということがありました。幸いにも職場に広めるようなことにはなりませんでしたが、家族5名全員が感染してしまうという状況になってしまいました。

発症が早かったのは長男だったので最初の感染は長男の可能性がありますが、学校への往復だけで遊びに行くこともまったくなかったので感染経路は不明です。長男の発症を皮切りに瞬く間に家族全員が発症していききました。感染することにより周囲へも大きな影響がでます。職場にも迷惑をかけたのはもちろんですが、長男の高校では体育祭が中止になり、次男の中学では感染が判明した日には全員が途中下校してその後数日休校になりました。三男は感染判明が夏休み最後の日だったので学校には行っておらず特に影響はありませんでした。

子どもたちや私は症状もそれほど重くなく数日で回復。ただし10日間は外に出られないので買い物に行くこともできません。いろんな方の助けや、ネットスーパーの利用で隔離生活を続けました。幸いにも我が家の子どもたちは神経質なところもなく能天気な性格なので、このような生活も合宿所のような雰囲気楽しんでいました。ただ妻だけは症状が重く、39度以上の発熱が9日間つづきその後12日間入院することになりました。大阪の感染状況が一番ひどいときだったので、なかなか入院もさせてもらえず保健所も機能していないような状態でした。保健所の派遣してくれたお医者さんが往診に来てくれたのは夜中の2時半！保健所や医療関係者の方々もほんとうに大変だったと思います。なんとか強引に入院させてもらうことができ、私や子どもたちの隔離期間も終了して職場や学校に復帰。妻の入院生活が思いのほか長く、家族全員が揃うのにはしばらくかかりましたが、なんとか平穏な生活が戻ってきました。

ちなみに嗅覚や味覚の障害はその後もしばらくつづきました。そしてこの隔離期間中、飼い猫もコホンコホンと咳をしていました。新型コロナは猫にもうつるそうなんです。

まだまだ感染状況がどうなっていくか油断はできない状況です。みなさまも十分にお気を付けてください。

(シゲヒロ・M)

活動のあと

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日) 発行

発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町二二 東興ビル4階

頒価百円

9/2	消防設備等法定点検①/生野区相談支援事業所連絡会役員会	11/10	生野区学童期子ども支援連絡会役員会
9/3	グループホームスタッフ全体会議		生野区グループホーム連絡会世話人会
9/4	内部研修(発達障害勉強会)	11/13	内部研修(発達障害勉強会)
9/7	消防設備等法定点検②	11/15	内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)
9/8	安全委員会/生野区学童期子ども支援連絡役員会	11/15~28	実習受入れ(四天王寺大学)
	生野区グループホーム連絡会	11/16	防災委員会
9/14	消防署立入り検査(さらら)	11/17	生野区学童期子ども支援連絡会
9/17	出発通信発送/生野区相談支援事業所連絡会		生野区相談支援事業所連絡会
	ポジティブ生活文化交流祭実行委員会	11/18	八尾事件を考える会
9/18	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)		地域共生ケア“看取りと葬送”勉強会
9/21	どンドン講演(守口オールケア学院)	11/19	研修委員会/ビロン(松野農園)/聖フランシスコ会理事会
9/22	生野区NPO連絡会役員会/内部研修(てんかん研修)	11/20	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
9/24	地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会	11/23	第12回東北⇔関西⇒九州ポジティブ生活文化交流祭
9/25	実習終了(関西大学)	11/24	厚生労働省署名提出活動/生野区NPO連絡会
9/27	執行委員会	11/25	執行委員会
9/29	内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)	11/26	地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会
9/30	実習終了(桃山学院大学)	11/27	みらくる ゆーすと進路勉強会
10/1	グループホームスタッフ全体会議	11/27~28	いくの みんなの文化祭
10/4	見学受入れ(守口オールケア学院)	11/28	内部研修(職員パワーアップ会議)
10/5	どンドンプロジェクト会議	12/2	生野区相談支援事業所連絡会役員会
10/7	不登校・ひきこもり支援連絡会	12/3	グループホームスタッフ全体会議
10/13	生野区学童期子ども支援連絡会役員会	12/4	見学受入れ(桃山学院大学)
	生野区グループホーム連絡会世話人会	12/7	市民ポータルサイト1分動画撮影会/エブリイ納車
10/13~11/9	内部研修(人権研修)	12/8	理事会/生野区学童期子ども支援連絡会役員会
10/14	編集委員会		生野区グループホーム連絡会世話人会
10/16	内部研修(発達障害勉強会)	12/9	どンドン講演(関西大学)
	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	12/10	研修委員会
10/19	市民活動総合ポータルサイト交流会(ゲストスピーカー)	12/12	大阪障害者自立セミナー2021
10/20	生野区相談支援事業所連絡会役員会	12/13	グループホームの再編に反対する
	生野区学童期子ども支援連絡会		緊急行動のネットワーク会議
10/22	ビロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会役員会	12/14	大阪市オールラウンド交渉①
10/25	生野区相談支援事業所連絡会	12/16	内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)
10/27	生野区NPO連絡会役員会	12/17	生野区相談支援事業所連絡会
10/28	執行委員会/見学受入れ(東大阪大学)		地域共生ケア生野推進委員会役員会
	グループホーム全国団体懇談会	12/18	内部研修(発達障害勉強会)
10/29	大阪府オールラウンド交渉①		みらくる ゆーすと進路勉強会
	グループホームの再編に反対する		子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
	緊急行動のネットワーク会議	12/22	生野区NPO連絡会役員会
11/4	大阪府オールラウンド交渉②	12/23	どンドン講演(四天王寺大学)
	生野区相談支援事業所連絡会役員会		グループホーム全国団体懇談会
11/5	グループホームスタッフ全体会議	12/27	門松づくり
11/7	みらくるクラブ【木登り】(住之江公園)	12/29	執行委員会

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください!

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方
会費 3,000円+通信送料 300円 計 3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方
寄付金 年間 3,000円以上

★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。認定NPO法人として続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご支援、ご協力よろしくお願ひいたします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料 500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080
特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※通信の郵送がご不要の方はご一報ください。



編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスがさらなる猛威をふるって大変な1年でしたが今年こそは希望の光明が差ししてくれることを願うばかりです。みなさまにとって良い1年でありますように!!

(シゲヒロ・M)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011
大阪市生野区田島1-10-30 たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
ホームページ https://www.tabidati.jp/

750部